

### III 事業実施結果

#### 1 世界からのお客様を迎える準備を進めよう

本事業では、大会参加選手や成田空港から日本を訪れる海外からのお客様を千葉らしい「おもてなし」の心で歓迎するための準備として、2020ちばおもてなし隊企画運営委員会を構成する千葉県スポーツコンシェルジュ及び学生団体おりがみと連携して、以下の事業を実施した。

##### (1) オンラインでワークショップ！「わたしたちのおもてなし」の実施

2021年に開催されるオリンピック・パラリンピックが、新しい生活様式・withコロナの中でのおもてなしになること、また海外からの選手・ゲストを迎えるのも、今までどおりとはいかないとの認識のもと、若い皆さんがオンラインで集い、2021年に行う“新しいおもてなし”や“新しい歓迎イベント”を共に考えて、実現することを目指した。

なお、本事業実施のため、以下の点に留意し取組を進めた。

##### 1) オリンピック・パラリンピックでのホストタウン登録自治体の参加依頼

松戸市、成田市及び浦安市のオリンピック・パラリンピック担当課に参加いただいた。

ワークショップ前に、各自治体でのオリンピック・パラリンピックに向けた取組のインタビューを収録し、ワークショップ参加者に事前に各自治体の取組の情報を提供した。

##### 2) スタッフ希望者の募集

事業への参加意欲の向上を目指して、ワークショップ参加者からスタッフ希望者を募った。その結果参加申込み24組のうち、7人からスタッフとしての参加希望があった。

令和2年10月30日（金）には、スタッフ希望者、学生団体おりがみメンバーなどとオンラインで事前ミーティングを実施し、スタッフ同士の顔合わせを行い、役割分担などについて協議した。

#### 事業概要

【事業名】 オンラインでワークショップ！「わたしたちのおもてなし」

【メインテーマ】 ○withコロナでの“新しいおもてなし”

○多様な人々を思っておもてなしを考えよう

【参加資格】 千葉県に在住・在学する本年度13歳から22歳になる方

【実施方法】 オンラインで開催（Zoom）

#### 開催日時・プログラム

オンラインによるワークショップは、初めての試みであり、より多くの皆さんの参加機会を確保するため、2回開催することとした。また、事前学習として、関係動画を事前に視聴することで、共通認識のもと、ワークショップに参加できるよう配慮した。

【事前学習】 ワークショップでの話し合いに役立てるため、以下のような自治体からのメッセージ、企画づくり講座などの動画を作成し、YouTubeを利用して視聴できるようにした。

この動画は、令和2年11月1日から視聴できるようにした。

- ①東京2020オリンピック・パラリンピックでのボランティア(千葉県から)
- ②オリンピック・パラリンピックに向けた松戸市の取組紹介
- ③オリンピック・パラリンピックに向けた成田市の取組紹介

- ④オリンピック・パラリンピックに向けた浦安市の取組紹介
- ⑤おもてなし案作成方法について（学生団体おりがみによる企画づくり講座）
- ⑥おもてなしアイデアの紹介（おもてなし動画アワード応募作品、大学生からのアイデアなど）

あわせて、参加当日までに「オンライン(非接触型)でのおもてなしと、オフライン(接触型)でのおもてなしのメリットやデメリット」について考えてくるようお願いをした。

#### 【ワークショップ第1回目】

- 開催日時 令和2年11月8日（日）18時～
- 第1回目テーマ「オンラインでのおもてなしを考えよう」

#### 《実施内容》

- 当日のプログラム 進行：学生団体おりがみ

#### ①Zoomの接続テスト

Zoomが初めてで、接続に不安がある方を対象に接続テストを実施

#### ②開始前イベントとして動画の視聴

開会前の時間を利用して、参加者に「おもてなし案の作成方法」及び「おもてなしアイデアの紹介」動画を視聴してもらうようにした。

#### ③開会

あいさつ・ワークショップの流れ説明。

ゴールボール女子日本代表選手からワークショップ参加者へのメッセージビデオを紹介。

#### ④全体会

進行から「おもてなし案の作成の要点」を説明。

参加者に事前に考えてきてもらった「オンライン(非接触型)でのおもてなしと、オフライン(接触型)でのおもてなしのメリットやデメリット」について、意見交換を実施。

#### ⑤グループワーク「オンラインのおもてなしを考えよう」

Zoomのブレイクアウトルームの機能を利用して、参加者を3つの班に分け、各班の中で自己紹介や簡単なアイスブレイクを行った。

その後、各班でテーマに基づき、アイデアを検討。

いずれの班も「ファシリテーター」、「記録係」は主としてスタッフ希望の参加者が担当し、学生団体おりがみのメンバーはサポート役を中心に担当した。

#### ⑥まとめの会

各班の記録係（又はファシリテーター）が、グループでまとめたアイデアの概要について発表。

1班「オールスキルズマップ」

2班「選手に・観光客に・世界中に動画でおもてなし」

3班「高校の日常生活を動画に！」

\*詳細は24ページに掲載しました。

各班からの発表終了後、参加いただいた自治体（松戸市、成田市、浦安市の皆さん）、主催者である千葉県及び2020ちばおもてなし隊企画運営委員会からこの日提案のあったアイデアについてコメントを頂いた。

最後に、ワークショップにメッセージを寄せていただいたゴールボール女子日本代表選手へ

の参加者全員によるお礼のメッセージを録画して終了した。

#### 《参加者》

- 参加総数 27名
- 中学生 1名 高校生 12名 大学生年代 2名 学生団体おりがみ 4名
- 自治体の皆さん 3名 千葉県 2名 2020ちばおもてなし隊 3名

#### 【ワークショップ第2回目】

- 開催日時 令和2年11月14日(土) 16時～
- 第2回目テーマ「オフラインでのおもてなしを考えよう」

#### 《実施内容》

- 当日のプログラム 進行：学生団体おりがみ

##### ①Zoomの接続テスト

Zoomが初めてで、接続に不安がある方を対象に接続テストを実施

##### ②開始前イベントとして動画の視聴

開会前の時間を利用して、参加者に「おもてなし案の作成方法」及び「おもてなしアイデアの紹介」動画を視聴してもらうようにした。

##### ③開会

あいさつ・ワークショップの流れ説明。

ゴールボール女子日本代表選手によるワークショップ参加者へのメッセージビデオを紹介。

##### ④全体会

進行から「おもてなし案の作成の要点」を説明。

参加者に事前に考えてきてもらった「オンライン(非接触型)でのおもてなしと、オフライン(接触型)でのおもてなしのメリットやデメリット」について、意見交換を実施。

##### ⑤グループワーク「オフラインのおもてなしを考えよう」

Zoomのブレイクアウトルームの機能を利用して、参加者を2つの班に分け、各班の中で自己紹介や簡単なアイスブレイクを行った。

その後、各班でテーマに基づき、アイデアを検討。

いずれの班も「ファシリテーター」、「記録係」はスタッフ希望の参加者と、学生団体おりがみのメンバーが手分けをして担当した。

##### ⑥まとめの会

各班の記録係(又はファシリテーター)が、グループでまとめたアイデアの概要について発表。

1班「J Kから学ぶ日本の文化」

2班「思いをつなげる扇子」

\*詳細は25ページに掲載しました。

各班からの発表終了後、参加いただいた自治体(松戸市、成田市、浦安市の皆さん)、主催者である千葉県及び2020ちばおもてなし隊企画運営委員会からこの日提案されたアイデアについてのコメントを頂いた。

最後に、ワークショップにメッセージを寄せていただいたゴールボール女子日本代表選手への参加者全員によるお礼のメッセージを録画して終了した。

《参加者》

参加総数 17名

高校生 5名 ボランティア部顧問 1名 学生団体おりがみ 3名

自治体の皆さん 3名 千葉県 2名 2020ちばおもてなし隊 3名

(2) おもてなし動画アワード2020の開催

若い世代から千葉を盛り上げ、1年後となった東京2020大会で、国内外からのゲストをより良いおもてなしで迎えらるる準備を進めるために、新しい生活様式が求められる今だからできる「動画」によるコンテストを開催した。

事業概要

【事業名】 おもてなし動画アワード2020 ～わたしたちの「おもてなし」～

【テーマ】 千葉の魅力・千葉ならではのおもてなし

【募集部門】 1) わたしたちの「おもてなしビジョン」《1秒～90秒以内》

オリンピック・パラリンピック開催時に、こんなおもてなしをしてみたい、こんな風にもてなしやゲストを迎えたいというアイデアを動画で募集

2) わたしの好きなちばの自慢! 《1秒～3分以内》

地域をテーマに、地域ならではの自慢のおもてなしや、地域の魅力・文化の紹介動画を募集

3) 特別編「がんばれ!ちばへのエール」《1秒～90秒以内》

災害や感染症など負けずに頑張る千葉への応援メッセージを動画で募集

【応募資格】 県内に在住・在学し、1998年(平成10年)4月2日から2008年(平成20年)4月1日に生まれた方

【応募方法】 ①「おもてなし隊広場」LINE公式アカウントからの応募

②メールによる応募

③ファイル転送サービス(Bizストレージ ファイルシェア)による応募

【スケジュール】

令和2年8月～12月 作品募集

令和3年1月 審査会などで優秀作品等の選考

令和3年2月 表彰式及び優秀作品・アイデアを紹介

作品の応募状況

作品募集期間中の部門ごとの応募状況は以下のとおりであった。

○部門(1) わたしたちの「おもてなしビジョン」

応募作品数 11作品

内訳:中学生 1作品 高校生 7作品 大学生 2作品

○部門(2) わたしの好きなちばの自慢!

応募作品数 13作品

内訳:中学生 2作品 高校生 10作品 その他 1作品

○部門(3) 特別編「がんばれ!ちばへのエール」

応募作品数 4作品

内訳:中学生 2作品 高校生 1作品 大学生 1作品

応募方法別の応募状況は次の通りであった。

- 「おもてなし隊広場」のLINE公式アカウントからの応募……19作品
- メールによる応募……6作品
- ファイル転送サービス利用による応募……3作品

#### 審査会による審査

応募作品のうち、部門（1）及び（2）の審査は以下の方法により実施した。

#### 【審査基準】 部門（1）わたしたちの「おもてなしビジョン」

- アイデアの独創性……独創的なアイデアとなっているか
- アイデアとしての魅力……取り組んでみたいアイデアか
- 実現可能性……中学生、高校生の年代の方が取組可能か

部門（2）わたしの好きなちばの自慢！

- テーマ性……千葉の魅力や、千葉への思いなどをアピールする力のある作品となっているか
- 独創性……オリジナリティのある作品となっているか
- 構成力……ストーリー性があり、バランスの取れた作品となっているか

#### 【審査員】 \*敬称略

- 審査員長 明石 要一（千葉敬愛短期大学学長）
- 審査員 矢嶋 真（元高等学校放送部顧問）
- 審査員 Saruya Nadezda（サルヤ ナディヤ 千葉県ゆかりの外国人 ロシア出身）
- 審査員 劉 微墨（リュウ チボク 千葉県ゆかりの外国人 中国出身）
- 審査員 今井 典史（千葉県環境生活部 県民生活・文化課 副課長）

#### 【審査方法】 審査は、「事前審査」及び「審査会」での審査により行った。

なお、部門（1）については、おもてなし隊広場の参加者による「お気に入り」の投票を実施し、その結果も加味することとした。

#### 《事前審査》

実施期間：令和3年1月15日～1月25日

実施方法：部門（1）及び（2）の全作品を、YouTube（限定公開）にアップし、審査員はその動画を視聴して、上記審査基準に基づき採点をした。

事前審査と同時期に、部門（1）のお気に入り投票をおもてなし隊広場の中で実施し、その結果、「暁の星」グループ、中島悠斗さん及び遠藤なゆさんの作品が上位となった。

#### 《審査会》

開催日時：令和3年1月31日 13時～ オンラインで開催（Zoomを利用）

審査方法

- 部門（1）では、審査員の事前審査で得点の高かった5作品について、各審査員からコメントを頂き、審査員の得点に、おもてなし隊広場の投票結果を加味して上位5作品を「グッドアイデア賞」とすることを決定した。
- 部門（2）では、審査員の事前審査で得点の高かった6作品について、各審査員からコメントを頂き、得点の最も高かった作品を「最優秀賞」、その他5作品について「優秀作品賞」とした。その後、「審査員特別賞」について協議をし、1作品を決定した。

なお、この部門の作品上位3作品については、「地域発デジタルコンテンツ」総務大臣奨励賞に推薦する作品となった。

【各賞について】

- 部門(1) わたしたちの「おもてなしビジョン」

《グッドアイデア賞》

- 「暁の星」の皆さん
- 遠藤 なゆさん
- 千葉県立船橋北高等学校家庭科部の皆さん
- 前島 万葉さん
- 中島 悠斗さん

- 部門(2) わたしの好きなちばの自慢!

《最優秀賞》

- 佐藤 初羽さん 「千葉県の魅力」

《優秀作品賞》

- 長谷川 拓海さん 「九十九里浜」
- 渡邊 心斗さん 「千葉県PV」
- 市原中央高等学校放送委員会の皆さん「NEW CHIBA」
- 小口 詩織さん 「松戸の素晴らしき公園」
- 「天才ぼくちゃん」の皆さん「紹介PR in 香取神社」

《審査員特別賞》

- 千葉県立東金特別支援学校中学部2年3組の皆さん「選手の皆さんに千葉の魅力を伝えよう」

【作品の取扱いについて】

部門(1)、(2)の受賞作品については、今後千葉県のホームページ、2020ちばおもてなし隊のホームページなどを通じて多くの皆さんに見ていただく。

部門(3)については千葉県のSNS(チーバくんのツイッター)などを通じて多くの皆さんに見ていただく。

【表彰式】

開催日時 令和3年2月21日(日)14時～

フォーラム「みんなでつくる『わたしたちのおもてなし』」の中で実施

開催方法 オンラインで開催(ZOOMを利用)

参加者 受賞者5組・9人 その他の参加者89人(スタッフ等を含む)

実施概要 ①各賞発表

②賞状授与

オンライン開催のため、審査員長が賞状を読み上げ、表彰式終了後に受賞者に賞状と副賞を送付。

③審査員講評

④受賞作品紹介・インタビュー

受賞者が5人参加し、それぞれの参加者の作品を視聴、その後インタビューを行った。

## 2 2020ちばおもてなし隊の提案の実現と活用

### (1) 「地震パンフレット」及び「やさしい日本語でコミュニケーション」シートの印刷・活用

#### 1) 地震パンフレットについて

本パンフレットについては、既に英語版が完成しているため、増刷し、関係方面に配架・配布をお願いすることとしている。

**【配布先・案】** ちば国際コンベンションビューロー、ホストタウン登録自治体  
都市ボランティア及び都市ボランティア体験プログラム参加の皆さん

#### 2) やさしい日本語でコミュニケーション シート版の印刷・活用について

日本を訪れる観光客などが、困ったときや食事、移動などの際に必要な最低限の16の言葉については、前年度に松尾高校の生徒の皆さんが選択をし、多言語のシート版の原稿もあることから、印刷を進め、地震パンフレットと同様の配布を行う。

### (2) 「太巻き寿司でおもてなし」の普及・活用

2020ちばおもてなし隊のこれまでの活動の中で、「太巻き祭り寿司でおもてなし」を提案し進めてきた学生が、「太巻き祭り寿司」によるおもてなしの提案をアピールする動画を作成し、おもてなし動画アワードに応募した。

当面、この動画を活用しながら、おもてなし隊広場などでも紹介し、普及に努めていく。

また、この動画に加え、過去のおもてなし隊での活動実績などを載せた動画も今後作成予定であり、一層の普及促進に努めることとする。

## 3 ボランティア・おもてなし情報発信の充実

高校生を対象に、SNSを活用してボランティア活動やおもてなし活動の情報の発信に加え、高校生がボランティア活動の提案や、意見交換など行うため、以下のような取組を進めた。

### (1) 「おもてなし隊広場」の参加者の拡大と内容の拡充

#### 参加者

広場への参加者（友だち追加した数）は、年度当初45人（うちブロック数14）であったが、その後「都市ボランティア体験プログラム」参加者や各種イベントでの呼びかけなどを行った結果、令和3年2月25日現在、友だち追加数は246人（うちブロック数83）である。

#### 内 容

- 今年度、2月末までに発信したメッセージは87通（平均して1週間当たり1～2通）であった。
- 情報発信の主なものは、おもてなし隊のイベントに関する情報提供が主なものであった。
- 学生団体おりがみのメンバーを投稿の権限を持つ管理者とし、イベントの際には大学生からの呼びかけなども行うようにした。
- おもてなし動画アワードに作品募集では、大学生がサンプル動画を作成・配信し、また、ワークショップではおもてなしの企画案作りの動画を作成して配信するなどの工夫をした。
- おもてなし動画アワードでは、作品の応募の際、広場のチャットの機能を利用して作品の投稿などを行え

るようにした。その結果、全体で28作品のうち19作品が、広場を通じての投稿であった。

- ワークショップや、フォーラムなどのイベントの際には広場からもスタッフの募集を行った。
- ワークショップ参加者を対象におりがみの大学生と広場参加者がオンラインミーティングで交流を行う機会なども提供した。

#### (2) 「おもてなし隊広場」募集パンフレットの改訂・印刷

おもてなし隊広場への参加促進のため、主に以下の点を改訂し、印刷した。

- 参加対象をこれまでは主に中学生・高校生としていたが、対象を中学生・高校生・大学生に拡大した。
- おもてなし隊広場で募集したスタッフが参加したイベントの写真を掲載することで、参加意欲の喚起を図った。
- スタッフ募集への応募方法など、広場参加者が広場で行う各種イベントへのアクセスをやすくする表現を加えた。

#### (3) 情報発信・情報活用の多様化・高度化のための検討の推進

本件については、現在のおもてなし隊広場の機能を高め、「広場」の名にふさわしい交流の場、双方のコミュニケーションの場を目指すことを大きな目標に検討をすることとした。

このため、令和2年10月以降、学生団体おりがみメンバーや、SNSに慣れ親しんでいる若者、学校教育の場でのITC化に取り組んでいるシステムエンジニアなどから個別に意見を伺うなどして、方向性の検討を進めた。

あわせて、現在のおもてなし隊広場の活用状況を整理するとともに、若者たちがコミュニケーションツールとして主にどのようなものを使っているのか、使い方はどのようになっているのかなどについても総務省の調査などを踏まえ整理した。

検討に際しては、おもてなし隊広場を一步進めた交流の場の意味を込めて「ちばボランティア広場（仮称）」（以下「ちばボラ広場」と表記します。）と名付けて検討を進めた。

「ちばボラ広場」については、以下のように整理した。

- 「ちばボラ広場」は、千葉の若者たちを対象に、ボランティアについてその紹介・募集・応募のためのツールにとどまらず、広場参加者による相互交流が可能な参加型・双方向性のある場、参加者による提案やその実現を目指すスタートの場を目指す。

以上のことを検討する上で、以下のような検討項目を設けた。

- 検討項目1 「参加者に魅力的な「ちばボラ広場」作りと運営について」
- 検討項目2 「様々なツールをどのように活用することで、参加型・双方向型の広場づくりに適したものとなるのか」
- 検討項目3 「参加者の安全・安心（個人情報の保護など）について」
- 検討項目4 「「ちばボラ広場」の設置主体・運営主体について」

検討の概要は以下のとおり。

- 各種調査によれば、10代の若者たちが最も多く使用しているSNSがLINEであることを踏まえ、ちばボラ広場では、当面、情報発信のツールとしてLINE公式アカウントの活用を進めることで若者たちが参加しやすくするべきである。
- LINE公式アカウントでは、コンテンツや投稿時の工夫のため、参加者の中からスタッフとして「管理者」を募り、様々な内容について投稿してもらうことなども検討すべきである。

- LINE公式アカウント自体は「交流」を目的とした活用はできないため、①別のLINEのアカウントを用意してグループをつくり交流すること、② LINE以外のツールを使用して交流の場を用意することなども検討をする必要がある。
- 双方向のコミュニケーションのためには、まずLINEでのグループ作りを行い、希望者がグループに参加しやすくしながら、専用のホームページ、掲示板の機能も持つツール（例えばSlack）や、Facebookなどの活用を進める方策を検討することが必要である。
- 「ちばボラ広場」での「安心・安全」の確保のため、①参加の呼びかけ対象を限定する方法、②広く告知をして参加者のアカウント内でのやり取りを管理者がチェックする方法、などが考えられる。なお、後者の場合には管理者がチェックを行う部門を確立し、併せてそれに必要な人員・人材の確保が必要となる。
- 運営主体（管理者側）に公的機関又は公的機関が関連する団体が関与することで参加者や保護者に一定の安心感を持ってもらう方策などについても検討の必要がある。
- 「ちばボラ広場」の目標を実現するのにふさわしい設置主体、運営体制として、様々な団体や主体を巻き込んだ「事業共同体（コンソーシアム）」の形とし、運営に必要な人材、スタッフ経費も含めた資金などを得られるようにすることで、持続可能な「広場」にできるものとする。
- 事業共同体の立上げには、公的機関のバックアップについても検討の必要がある。

#### 4 フォーラム「みんなでつくるわたしたちのおもてなし」の開催

今年度、2020ばおもてなし隊が開催したイベントでは、中学生から大学生の年代の若い皆さんから2021年にやりたい“新しいおもてなし”について、素晴らしいアイデアを数多く提案された。

これらのアイデアを「提案」から「実現」へステップアップするため、オンラインのフォーラムを開催した。開催にあたって、千葉県にゆかりの外国人「チーバくんパートナー」の皆さんにも参加いただき、それぞれの国・地域の文化的背景なども踏まえた意見を頂くこととした。

ご参加いただいた「チーバくんパートナー」の皆様（敬称略）

	お名前	読み方	出身国
1	ALIMUJIANG AISHAN	ありむじゃん あさん	中国
2	邊 緯文	べん いぶん	台湾
3	TONG IRIS	とん あいりす	オーストラリア
4	孔 祥灝	こう しょうこう	中国
5	ALPIN SUTOPO	あるびん すとぽ	インドネシア
6	KHINE ZAR CHI THAINT	かじんぎー ちていん	ミャンマー
7	范 萱苒	はん けんい	台湾
8	PHUNG THI HAU	ふおん てい ほう	ベトナム
9	SIDDIQUI TANVIR BURNEY	しでいき たんぐいる ばるにー	パキスタン
10	洗 嘉欣	せん かきん	中国
11	上村 寿安 カルロス	うえむら じゅあん かるろす	ペルー

本事業実施のために、事前に次のようなことに取り組んだ。

##### (1) チーバくんパートナーとの事前打合せ

フォーラムに参加頂くチーバくんパートナーと主催者及び事務局担当者との顔合わせ及び打合せの機会を2回設けた。

### Ⅲ 事業実施結果

- 1回目 令和3年1月24日(日) 18時～  
参加者 チーバくんパートナーの皆さん、主催者(千葉県)、運営担当(学生団体おりがみ、生涯学習応援団ちば)  
内容 参加者の自己紹介及びフォーラムの概要(流れ)などについて説明
- 2回目 令和3年2月12日(金) 20時～  
参加者 チーバくんパートナーの皆さん、主催者(千葉県)、フォーラムのスタッフ希望者、運営担当(学生団体おりがみ、生涯学習応援団ちば)  
内容: グループディスカッションの進め方、スタッフの役割の確認及び役割分担の決定  
\* 2回目の開催時には、チーバくんパートナーと、参加者のうちスタッフ希望者の合同ミーティングとした。
- 3回目 令和3年2月18日(木) 13時半～(1、2回目欠席者向け)  
参加者: チーバくんパートナーの皆さん、主催者(千葉県)  
内容: これまでのミーティングの振り返り

#### (2) フォーラム参加者からのスタッフの募集と事前の打合せ

ワークショップと同様、フォーラムでも参加者の中からスタッフ希望者を募集し、12人の希望者があった。グループディスカッションでは、運営スタッフの役割が重要となることや、事前に直接会っての打合せができないことなどを踏まえ、希望者のニーズに応えることができるよう、数次にわたって打合せを開催した。

- 1回目ミーティング 令和3年2月12日(金) 20時～  
参加者 チーバくんパートナーの皆さんとの合同打合せとして実施  
内容 グループディスカッションの流れの説明およびスタッフの役割分担の決定。
- 2回目ミーティング 令和3年2月19日(金) 22時～  
参加者 スタッフ希望者、学生団体おりがみ、生涯学習応援団ちば  
内容 第1回目のミーティングを踏まえ、当日の詳細な流れを記載した資料に基づき、疑問点などについて意見交換をし、解決を図った。
- 3回目ミーティング 令和3年2月20日(土) 15時～  
参加者 スタッフ希望者、学生団体おりがみ、生涯学習応援団ちば  
内容 19日に参加できなかった希望者のため、19日と同じ内容で実施。
- 4回目ミーティング 令和3年2月21日(日) 12時～  
参加者 スタッフ希望者、学生団体おりがみ、生涯学習応援団ちば  
内容 直前のミーティングを開催し、疑問点や希望などについて意見交換を行う機会を設けた。
- Zoomを利用したミーティングのほかに、メールでのやり取りなどを通じて、スタッフ希望者のみなさんの疑問、希望などに答えられるようにした。

#### 事業概要

【事業名】 フォーラム「みんなで作る『わたしたちのおもてなし』～withコロナのおもてなし」

【参加資格】 千葉県内の中学校から大学までの年代の皆さん  
おもてなし活動に興味のある方

【実施方法】 オンラインで開催(Zoom)

【主なプログラム】

《おもてなし動画アワード2020 表彰式・作品紹介》

「おもてなし動画アワード2020」に応募のあった動画作品のうち、各賞を受賞した作品の表彰式・作

品紹介を行う。

#### 《グループディスカッション》

テーマ やってみたいおもてなし・やってほしいおもてなし

今までのイベントでいただいた「おもてなしのアイデア」を題材に、グループに分かれ、「チーバくんパートナー」からおもてなしアイデアについて、その国の地域や文化的背景の視点から意見をもらい、それを踏まえて参加者がアイデアのブラッシュアップを行う。

#### 開催日時

令和3年2月21日（日） 午後2時～

#### 実施内容

進行：学生団体おりがみ

##### ①Zoomの接続テスト

Zoomが初めてで、接続に不安がある方を対象に接続テストを実施

##### ②開始前イベントとして動画の視聴

開会前の時間を利用して、参加者におもてなし動画アワード2020の部門（1）及び（2）の動画を一部抜粋して視聴してもらった。

##### ③開会

主催者あいさつ 千葉県環境生活部 県民生活・文化課 副課長 今井 典史

ゲスト（審査員、チーバくんパートナー）紹介

##### ④おもてなし動画アワード2020 表彰式

###### ○受賞者紹介

部門（1）、部門（2）の各賞受賞者を紹介

###### ○賞状授与

表彰式に出席した受賞者の賞状読上げ（終了後、受賞者には副賞と合わせて発送）

###### ○審査員講評

表彰式に出席した審査員5人から、印象に残った作品、動画制作上心掛けたいこと、おもてなし動画アワード全体に対する感想などについてコメント。

###### ○受賞作品紹介と製作者インタビュー

表彰式に参加した受賞者の作品を、参加者全体で視聴後、制作者に動画を作った時の気持ちや受賞しての感想などをインタビューした。

##### ⑤グループディスカッション「やってみたいおもてなし・やってほしいおもてなし」

進行からグループディスカッションの進め方について説明後、Zoomのブレイクアウトルームの機能を活用し、全体が5つの班に分かれてディスカッションを開始。

ディスカッションでは、それぞれの班がワークショップのアイデア及びおもてなし動画アワードでグッドアイデア賞を受賞したアイデアの2つのアイデアについてテーマとして意見交換を行った。

各班では、以下のような流れでディスカッションを進めた。

○各班に参加している学生団体おりがみのメンバーが、アイデアについての概要を説明（ワークショップについては資料に基づき説明、動画アワードのアイデアについては動画を視聴）

○以後、スタッフ希望者の中で選ばれたファシリテーターが進行を担当。

自己紹介

検討対象のアイデアについてチーバくんパートナーからコメント

参加者が事前に考えてきた「良かった点」、「改善できるところ」などを発表し意見交換

最後に、記録担当（書記）の学生団体おりがみのメンバーが、ワークシートに沿って議論のまとめ

#### ⑥まとめの会

参加者全体が集まったところで、各班の記録担当（書記）又はファシリテーターからグループディスカッションでの意見交換の結果を発表。

ディスカッションの結果については、資料26頁～35頁の「グループディスカッションのまとめ」に記載の通り。

終了後、2020ちばおもてなし隊企画運営委員会委員長でもある明石要一氏からの講評をもって、グループディスカッションは終了。

最後に、参加者全員で写真撮影を行った。